

【老いて学べば、死して朽ちず】

【人間の本当の美しさ】

よく生きるためには、あれこれと頭で考えているよりも、まず動くこと。目の前にある自分の仕事に一心に打ち込むことが大切でありましょう。山村暮鳥(やまむらぼちよう)という詩人に、「友におくる詩」があります。《何も言ふことはありません。よく生きなさい。つよく。つよく。そして働くことです。石工が石を割るやうに。左官が壁をぬるやうに。それでいい。手や足をうごかしなさい。しっかりと働きなさい。それが人間の美しさです。仕事はあなたにあなたの欲する、一切のものを与へませう》と。彼の思想の根底には、全ての出来事には、目には見えない大きな存在、つまり神様仏様の計らいによってもたらされるといふ考え方がうかがえます。自分に与えられた役割に無心に打ち込んでいくことによつてこそ、人生は見事に完結するものなのだという思いに至つたのでしよう。彼は「よく生きる」とは頭で考えることではなく実践が伴うこと、働くことが大事であると説いています

が、本当にそうだと思います。人間の本当の美しさというのは、自分の目の前の仕事を真摯に、一所懸命打ち込む姿にこそあると言えましょう。また、その美しさは、周囲の人をも変えてしまうほどの、力を秘めていると言つても過言ではないでしょう。

【立派な人間に】

ともすれば私達は、地位と名誉を得て、偉い人間になりたいという欲に溺れてしまうものです。確かにそれも悪いことではありません。人間であれば当然の欲でもあります。むしろそういった欲が無いより良いでしょう。しかしもう一步踏み込んで考えると、偉い人間より、立派な人間を目指すべきだろうと思うのです。つまり、偉い人間にならなくても、社会にお役に立つ人間になるほうが大事だと思うからです。

社会という世間と、自分という個人は別個のものではなく、常に相関し合う関係性です。それなのに、「自分さえ良ければ、世間なんてどうでも良い」と思い込んでいる方が多くなつてきたように感じます。誰の責任でもない責任を、自分の責任として捉えていく。そ

ういう考え方が大切なのではないだろうか？例えば、目の前にゴミが落ちてくる。落としたのは自分ではない。次に通りかかる人が拾ってくれるかもしれない。でもそれなら自分が拾おうという心持が大切なのではないでしょうか。これにはお金も時間もかかりません。少し周囲に目を配るだけのことです。でも、これが簡単なだけに難しいとも言えるでしょう。何時でもできる、誰かがやってくれる、元々自分が落としたゴミではないのに、どうして自分が拾わなければならないのだろうか？それ自身が理解できない。そう仰る方もおられるでしょうが、これでは結局、世間と相関関係にある自分自身を満たす事ができないと同じ事でしょう。言い換えれば、順調にいく事が幸せなのではなく、順調にいかない事も「受け入れる強さ」が幸せに繋がっていくのだと思います。

先日、間もなく百歳を迎えるという女性の檀家さんと世間話をしていました。お話を聞けば、これまで病気という病気を経験することもなく、風邪も殆ど引いたことが無いとおっしゃる。見た目もお元気で、パソコンで年賀状作成も行うというのだから、シツカ

リと文明の利器をも使いこなして澁刺颯爽としておられると言えるでしょう。私は何気に「いつも若々しくお元気でいらつしやいますね？」と投げかけると、「いや、日々老境を感じます…」と。続けて「歳を重ねれば重ねるほど、時間が過ぎ去るのを早く感じます。今では、一日一日、老いていく事も実感として分かる様になってきました。だから日々生かされている事に感謝の念を深くするのです」と、笑みを浮かべながら仰つておられました。日々老いていくのが分かる年齢があるんだなあと、私は衝撃を受けました。「一年過ぎるのが早い」という声はよく聞きますが、一日ごとに老いを感じる境地というのに驚きました。どれほどの大富豪でも買うことの出来ないのが「時間」です。ただ、その時間をどの様に使うかが大問題と言えるでしょう。中には、人生に疲れて「早く、あの世へ行きたい」と考える方もおられると思います。

【老いて熟す】

老境を超えると、人間は二つに分かれると言います。老いて熟す人、

老いて朽ちる人。日本はいま高齢者が増えていきます。いま現在、日本人は百歳人口が五万人を超える高齢社会になりました。増えすぎて、前期と後期と分けるようになりました（笑）。ただ高齢者が増えただけでなく、生意気ですが、年の取り方を知らない老人が増えている様に感じます。その原因の根底には、日本人の尊い精神的なものを根本から破壊した、アメリカ CHQ の占領政策にあると思つています。日本が主権を回復した昭和二十七年サンフランシスコ講和条約以後は、その精神を日教組が受け継ぎました。彼らは「要求する事が、人間の権利である」とハッキリ言っています。個人意思のある人間ならば、誰しも要求する事は悪い事ではありません。ただし、人間には要求する権利と同時に、与える義務というものがセットになつていなければ、受ける事だけを要求する乞食根性の我が儘な人になり下がると言えるでしょう。

冒頭にも記した、偉い人間より、立派な人間を目指す要諦は：『少にして学べば、壮にして成すあり。壮にして学べば、老いて衰えず。老いて学べば、死して朽ちず（青少年時代に学べば、壮年になって為すことがある。壮年時代に学べば、老年になって気力が衰えない。老年時代に学べば、死んでもその人望は朽ちない）』。つまり、その年齢その年齢に与えられている目の前の学びに対して、真摯に、一所懸命に取り組む事だろうと思ひます。若いうちからテーマを持つて学んできた事が、中年、老年の時に開花するのです。これは当たり前前の事です。「ああして、こうしたら、そうなる」というのは当たり前の因果応報です。しかし多くの人は、壮年にして学ぼうとされない。定年後にする事が無いという人がおられますが、やはり壮にして学ばなかったら老いて衰えるのです。

【教育とは強制】

フリーターやニートと言つて、定職に就かない方が多く存在しているようです。ちなみに、厚生労働省が発表しているフリーター人口は百七十六万人。ニートは六十万人もいるそうです。定職に就かない理由についての一位は、職業や将来に見通しを持たずに教育機関を中退・修正しフリーターやニートになったというのです。

どんな職業に就いても、普通の生活感覚を持つて働いていければ、今の日本において飢え死にする事はないでしょう。「教育とは強制」だと私は考えます。教育は幼い時と、その道を初めて学ぶ時は強制から始まるものだという事です。体験から出たことが、確固とした結論なのです。志と言つてもいいし、覚悟と言つても良いでしょう。やらせてみなければ本当に好きか嫌いかなんて分かりません。いま自分の好きな事が分からないといつて仕事に就かなかつたり、就いても早々に辞めるといふ人が多いのですが、本人の自発性なんかには任せるから、定職に就こうとしないのではないかと思つています。もつとも、計り知れない曖昧な人生に対して、楽な方に進もうと思ふのも人情でしょう。しかし、この世に独立したものでないと思つていた事が、ここで繋がつていたのかと、理解できる様になつてくる事もあります。渦中にあるのは非常にマイナスだと思ふ出来事も、ある瞬間ガラツと変わつて精神の財産になる事もあります。

日々の貴重な人生の時間を噛みしめながら、その時、その瞬間を、一所懸命打ち込める自分でありたいものです。この一年が、皆様にとって、幸多かれと折念いたします。

合掌 副住職 谷川寛敬

